

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方气象台

新燃岳では、9月23日頃から火山性地震が増加しており、10月4日23時から昨日（10月5日）23時までの24時間に87回発生しました。また、火山性地震の振幅も次第に大きくなりました。火山性微動は観測されていません。

今回の地震の増加に伴う地殻変動は認められませんが、国土地理院による地殻変動観測結果では、2017年7月頃から霧島山を挟む基線で伸びの傾向がみられており、霧島山の深い場所で膨張している可能性があります。

新燃岳では、今後小規模な噴火が発生するおそれがあることから、5日23時35分に噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げ噴火警報を発表しました。新燃岳火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒してください。

噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○ 活動概況

新燃岳では、9月23日頃から火山性地震が増加しており、10月4日23時から昨日（10月5日）23時までの24時間に87回発生しました。また、火山性地震の振幅も次第に大きくなりました。火山性微動は観測されていません。

今回の地震の増加に伴う地殻変動は認められませんが、国土地理院による地殻変動観測結果では、2017年7月頃から霧島山を挟む基線で伸びの傾向がみられており、霧島山の深い場所で膨張している可能性があります。

監視カメラによる観測では、10月4日20時頃に噴煙が火口縁上100mまで上がりましたが、その後は火口縁を越える噴煙は認められません（図3①、図5①⑤）。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び宮崎県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

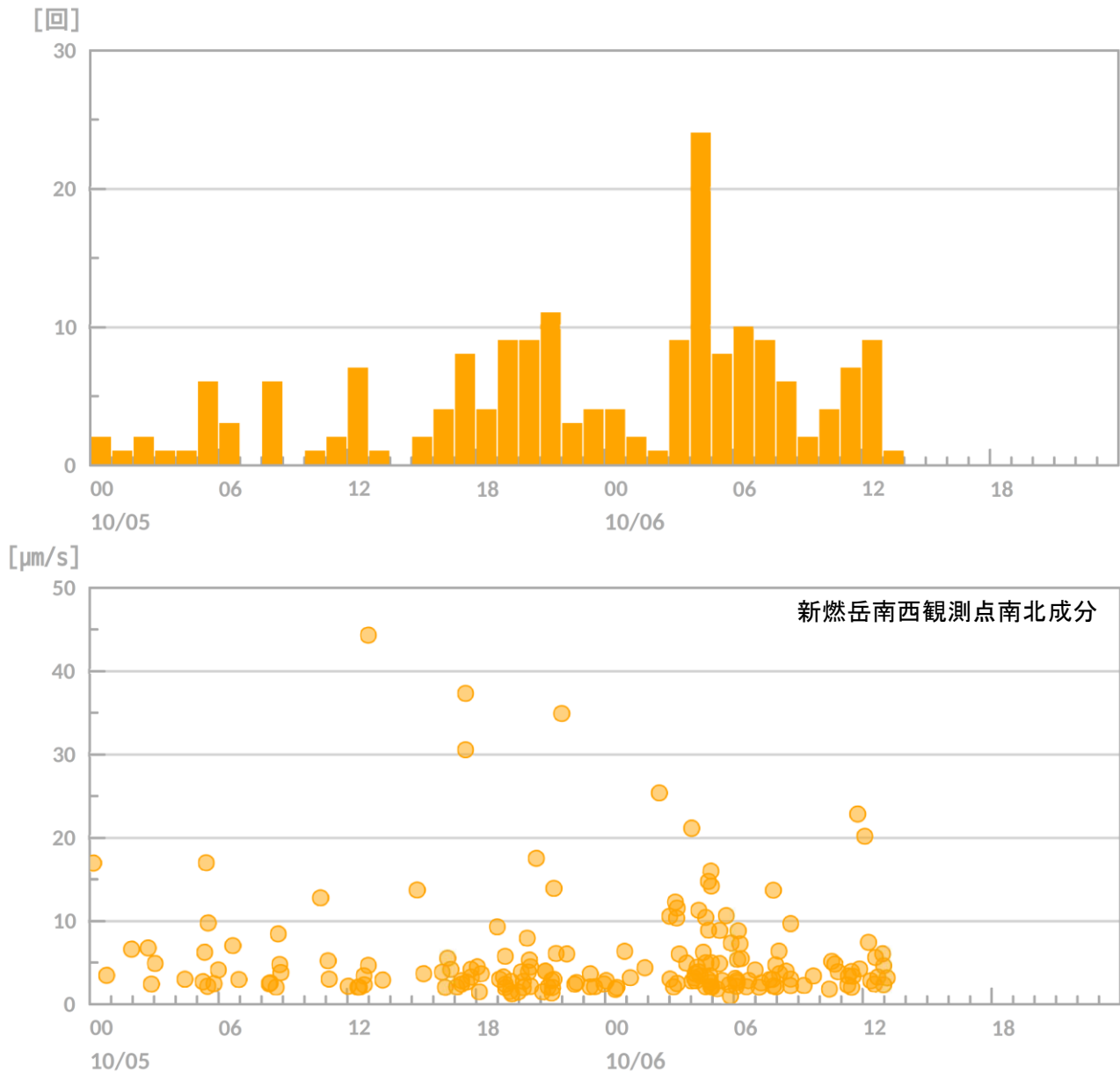


図1 霧島山（新燃岳） 火山性地震の特別回数（上図）及び最大振幅時系列（下図）
（速報値、2017年10月5日00時～6日13時）
火山性地震は、本日（6日）04時～05時の1時間に24回発生しました。

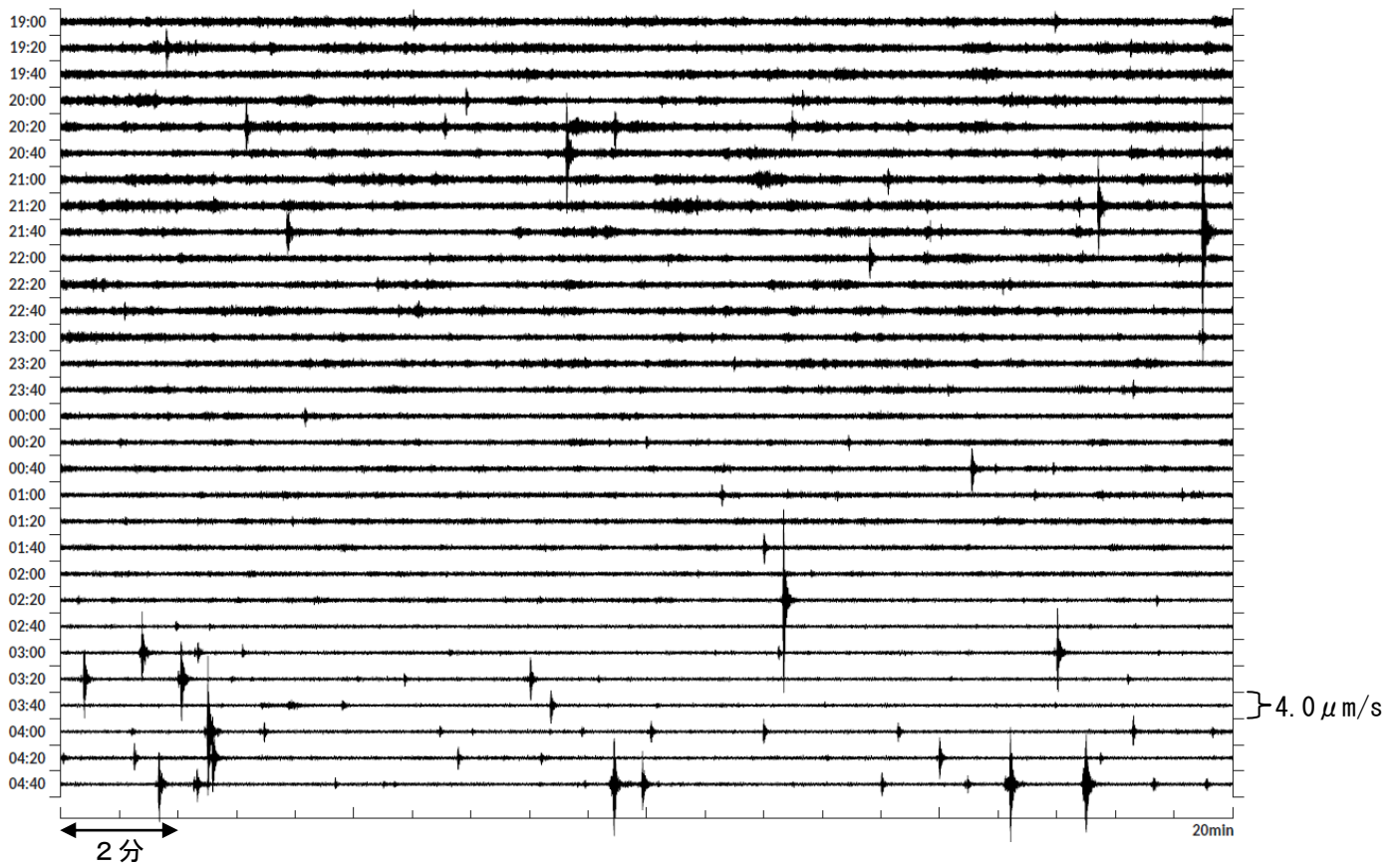


図 2 霧島山（新燃岳） 火山性地震の発生状況
(新燃岳南西観測点南北成分、2017 年 10 月 5 日 19 時 00 分～ 6 日 05 時 00 分)

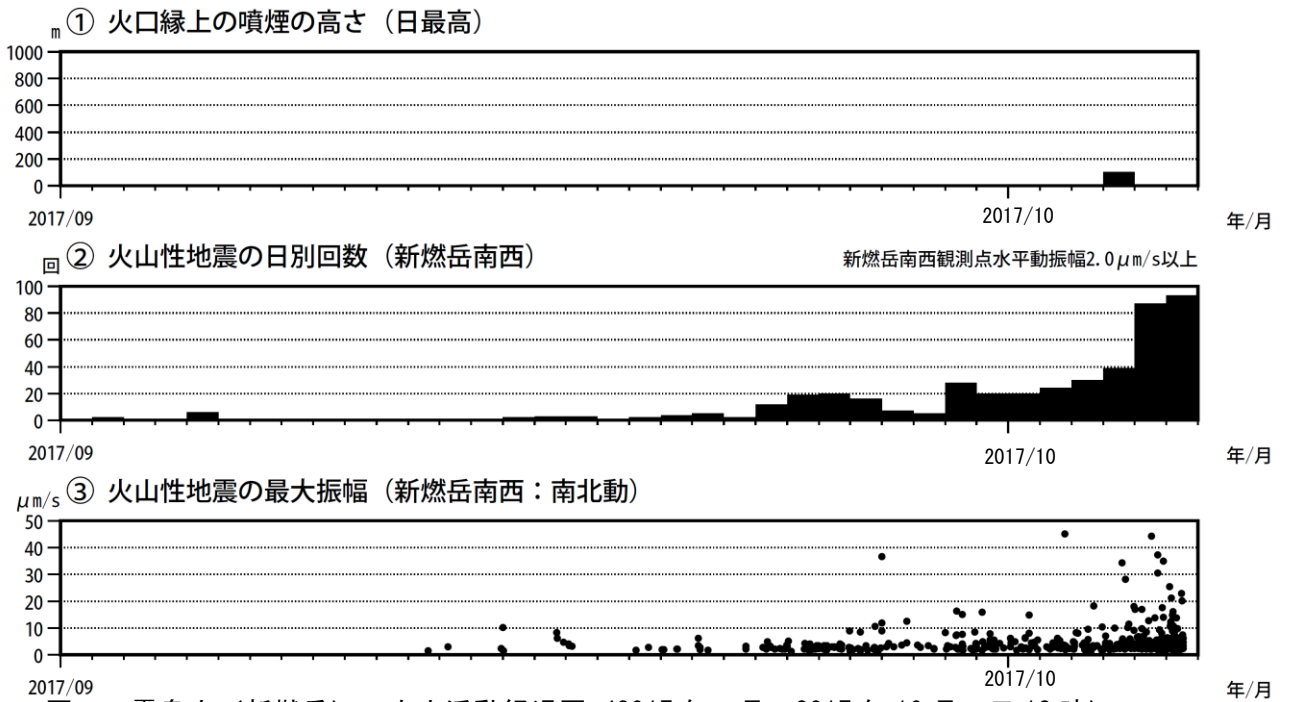


図3 霧島山 (新燃岳) 火山活動経過図 (2017年9月～2017年10月6日13時)

- ・ 9月23日頃から火山性地震が増加しており、火山性地震の振幅も次第に大きくなりました。
- ・ 10月4日に噴煙が火口縁上100mまで上がりました、その後は火口縁を越える噴煙は認められません。

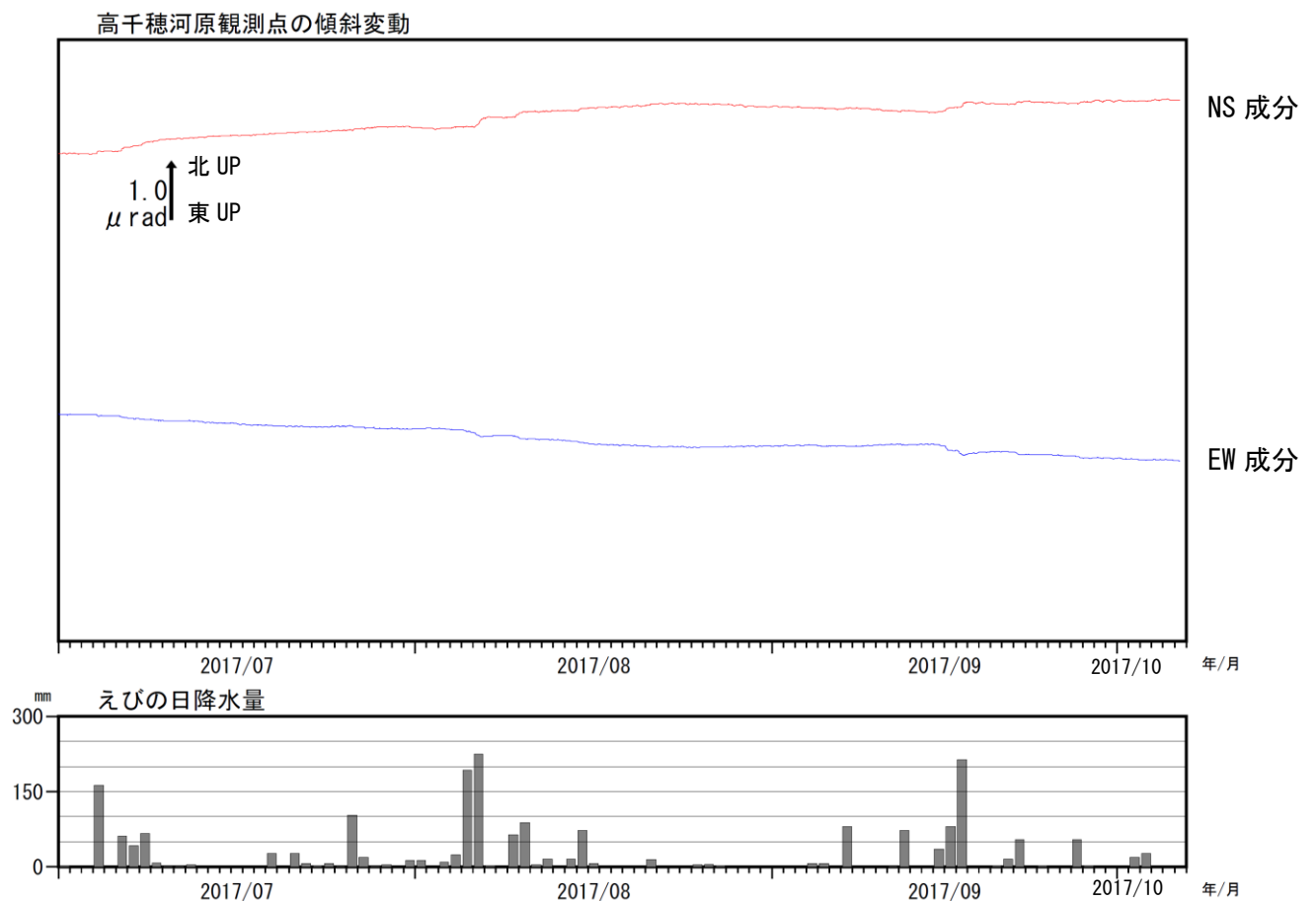


図4 霧島山 (新燃岳) 高千穂河原観測点の傾斜変動 (2017年7月～2017年10月6日11時)

地震の増加に伴う地殻変動は認められません。

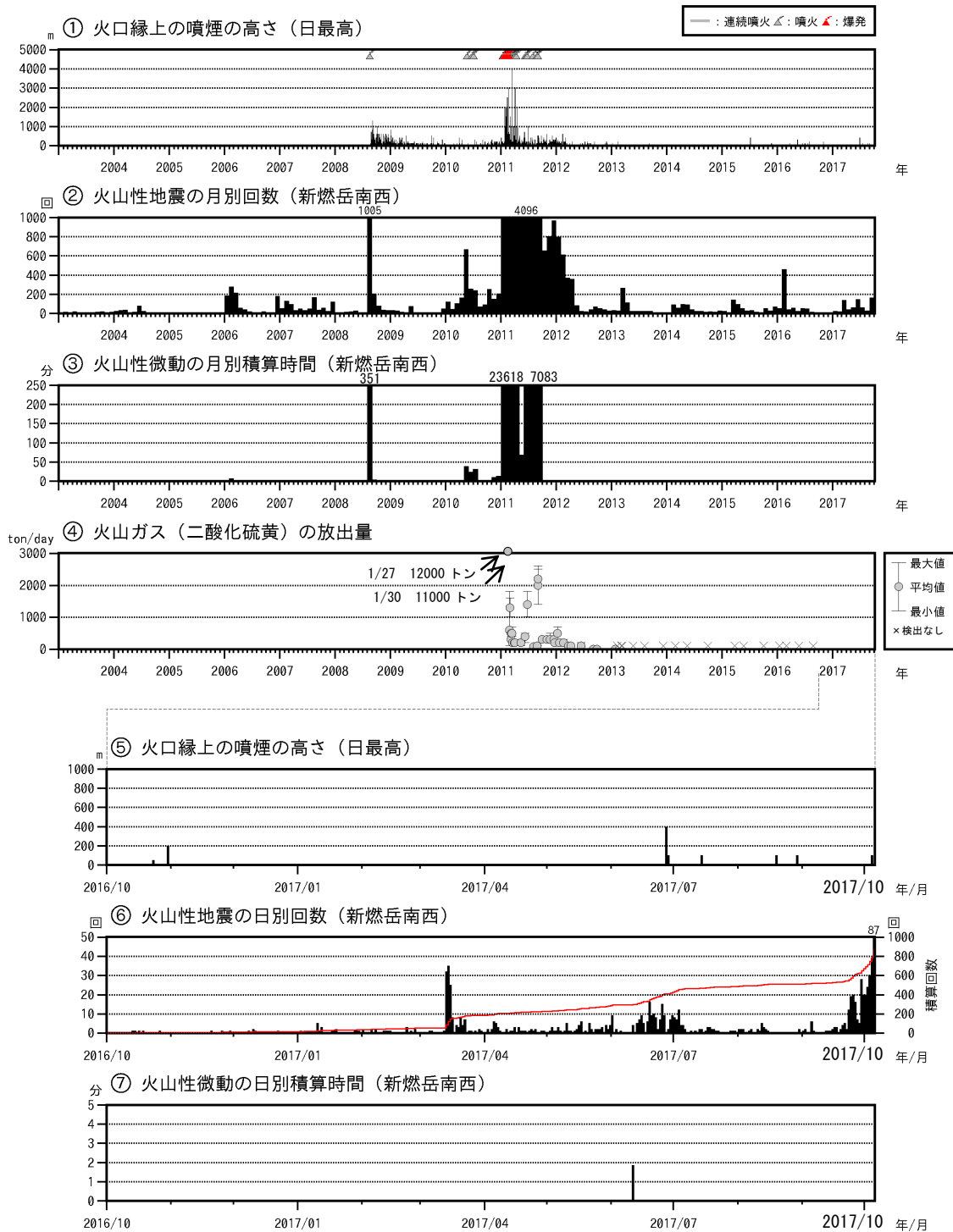


図5 霧島山（新燃岳） 火山活動経過図（2003年1月1日～2017年10月6日11時）
10月4日に噴煙が火口縁上100mまで上がりました、その後は火口縁を越える噴煙は認められません。

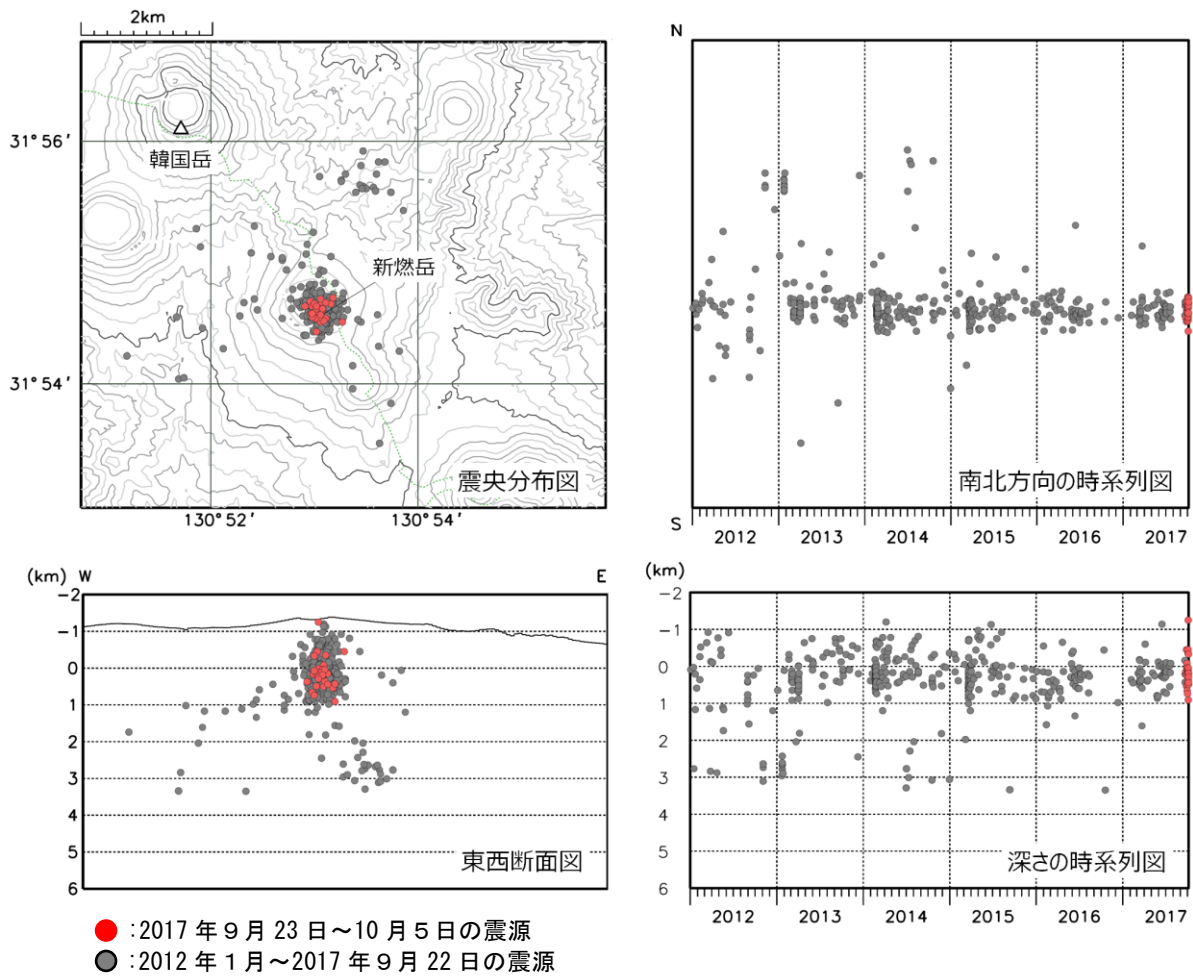
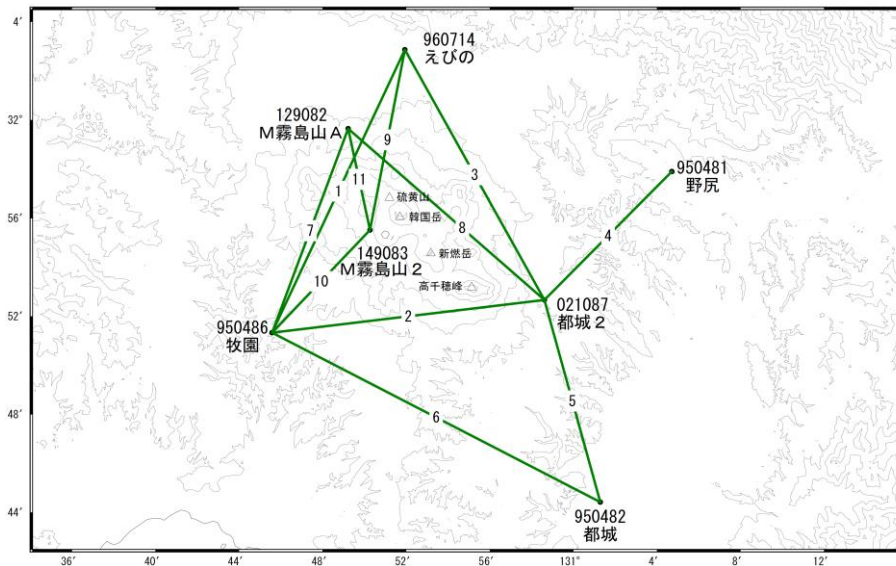


図 6 霧島山（新燃岳） 震源分布図（2012 年 1 月～2017 年 10 月 5 日）
9 月 23 日以降の震源は、これまでと同様に新燃岳のごく浅いところから海拔下 1 km 付近に分布しました。



「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震」の影響

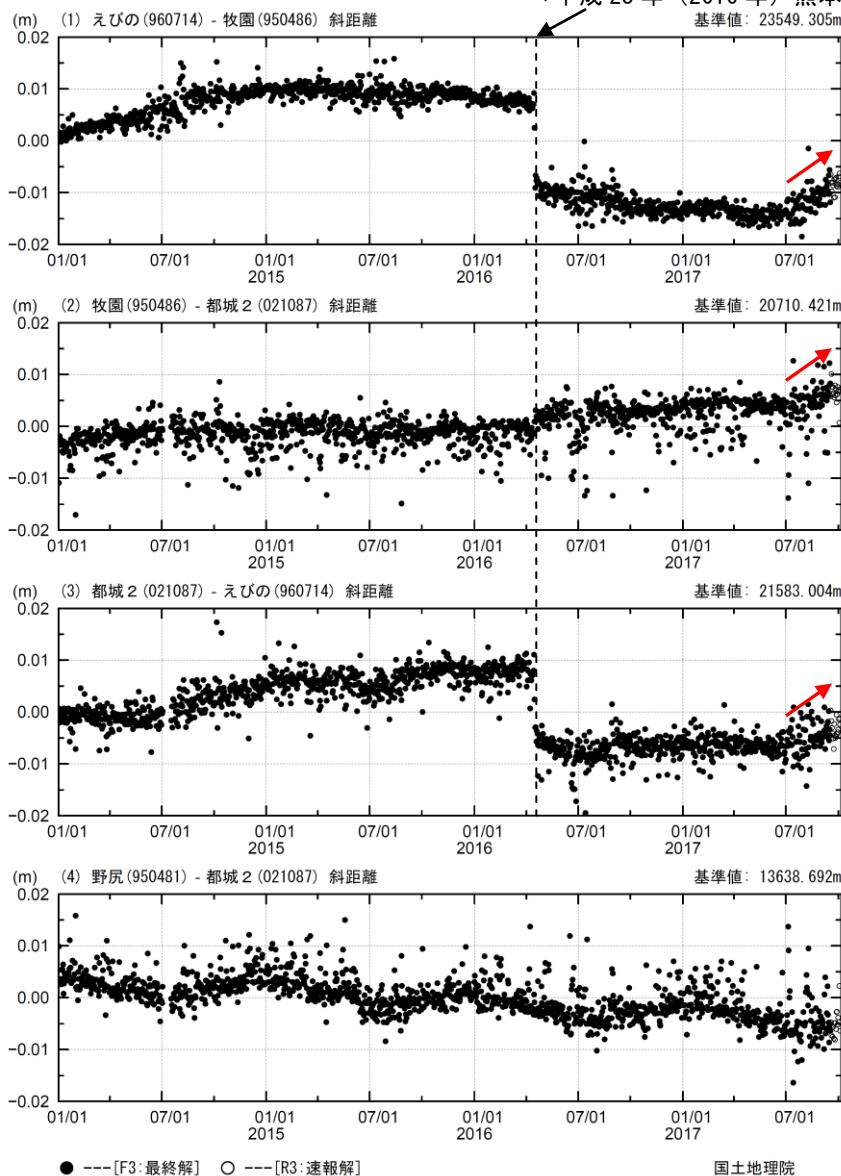


図 7 霧島山 (新燃岳) 国土地理院による地殻変動観測結果 (2014 年 1 月～2017 年 10 月 3 日)
2017 年 7 月頃から霧島山を挟む基線で伸びの傾向がみられており、霧島山の深い場所で膨張している可能性があります (赤矢印)。(この図は国土地理院による地殻変動観測結果に加筆しています)

最終解は国際的な GNSS 観測機関 (IGS) が計算した GNSS 衛星の最終の軌道情報 (精密暦) で解析した結果で、最も精度の高いものです。速報解は速報的な軌道情報による解析結果で、最終解に比べ精度は若干下回りますが、早期に解を得ることができます。 - 7 -

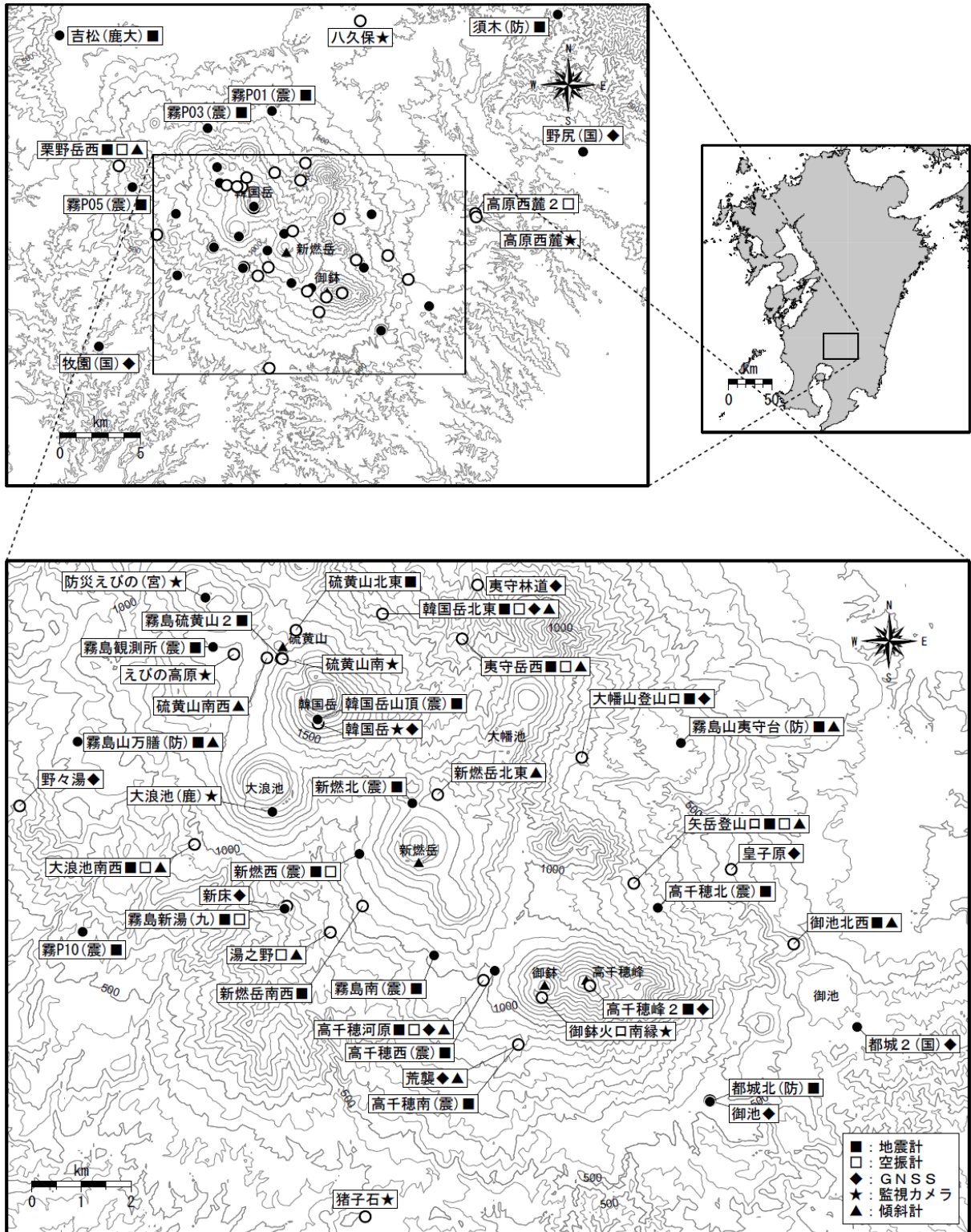


図 8 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所

(九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県